

毎年恒例の新春寄席。

今年は「伝統文化」をテーマにお届けします。

新年の初笑いを存分にお楽しみください。

林家
染雀



笑福亭
生喬



新年
祝
寄席

あ
く
ろ
す
亭

お雛子
佐々木
千華



桂
雪鹿



2024年

1月20日 土

開場 / 午後1時30分

開演 / 午後2時00分

- 会 場：生涯学習センターアクロス 4階多目的室
- 定 員：90人(要申込)
- チケッ ト：前売 1,500円(当日 1,700円)
- 申 込：11月6日(月)より電話か来館
(前売券の購入は来館のみ・当日券の予約も可)
- ※未就学児不可

お申し込み / お問い合わせ 大東市立生涯学習センター **アクロス**

〒574-0036 大阪府大東市末広町 1-301 ローレルスクエア住道サントワー内 ※JR 住道駅南側高層マンション内

TEL : 072-869-6505 FAX : 072-870-1405 E-mail : info@daito-across.jp

HP : 「大東 アクロス」で検索 開始時間 : 午前9時~午後10時 休館日 : 第2木曜日

お願い : 当センターの駐輪場は狭いので、なるべく公共交通機関や徒歩でお越しください。



演題散歩 林家染雀

雁風呂

「水戸黄門漫遊記」シリーズの一つを落語に移したものです。

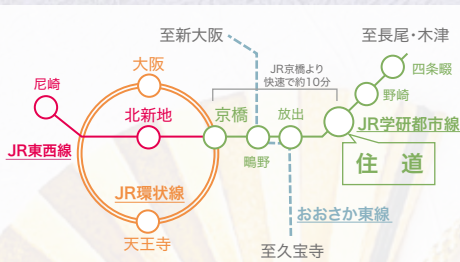
助さん格さんと共に東海道を旅していた黄門さま、途中昼食に立ち寄った粗末な掛茶屋（かけぢやや）で屏風絵に目を留めます。名人土佐光起（ときみつおき）の作とまでは分かったのですが、絵が意味しているところが分かりません。三人が首をひねっているところへ入って来た町人が、その絵の訳を教えてくださいましたのですが、その町人というのは実は…。昨年、私はNHKの上方落語の会で演じましたが、その時ディレクターから「この噺が収録されるのは昭和三十九年から実に五十八年ぶり」と言われました。なので珍品落語の一つと言って良いと思います。ところで皆さんは、水戸黄門と言われたらどの役者が演じた黄門さまを思い浮かべますか？

天王寺詣り

笑福亭のお家芸と言われており、代々笑福亭を名乗る演者が広く伝えていきます。（今では他門の噺家もよく演じるようになりました）落語には珍しく何月何日かが特定されていて「今日が（彼岸の）三日目、明日が四日目、明日が四日目で中日」というセリフから、舞台は春分の日か秋分の日の前日と分かります。

登場人物の住まいは特定されていませんが、恐らく現在の大阪市中央区でしょう。その家を出て、松屋町筋から今の表記で言えば国道二十五号線を通って四天王寺へと入って行きます。まるで、登場人物と一緒に彼岸の天王寺さんへお詣りしているような気分させてくれる情緒溢れる噺です。昔は落語の中のうんちくはその土地を知るガイドブックの役割も果たしていましたが、まさにこの落語は「四天王寺ガイドブック」でもあります。あなたもこの噺を聞けば今日から「四天王寺通」？笑

〈会場ご案内〉大東市立生涯学習センター **アクロス**



最寄り駅（JR住道駅）からのアクセス方法（3F受付に直結）

- JR学研都市線「住道駅」下車。
- ALBI側改札口を出て、書店奥（西）通路に出る。
- 通路左（南）のガラスのドアを出て、連絡橋を渡るとアクロスがあります。

アクロス & DIC21
YouTube
チャンネル
案内動画

★ご来場のお客様へ、 お願いとご案内

当センターイベント参加時には感染症予防対策のため、以下を推奨しています。

- マスクの着用
- 会場入場時の手指のアルコール消毒
- ご自宅での検温等の体調確認

（当日、発熱や風邪のような症状のある方につきましては、参加をお控えください。）

※本番中は客席の換気を行います